

## 「あなたの未来が、希望」

### マタイによる福音書 4章18～22節

学生キリスト教友愛会(SCF)主事、本学講師 野田 沢

皆さんは現在(2021)年放送されている「NHK 大河ドラマ」をご存知ですか？聖学院大学のある埼玉出身の渋沢栄一が主人公。幕末、さまざまな考えや想いを持った人々が、それぞれに出会い、影響を与え合い、時に対立し、また協力して新しい時代を作ってゆく物語です。

「迷いや混乱の中から、新しい一歩を踏み出す」…それはとつても勇気が必要です。近代日本の第一歩は、大きな変化は、とつても深い迷いや混乱の中から始まった。それは、多くの違いを持った人々が出会い、影響を与え合い、切磋琢磨し、協力して始まりました。

さて今日の聖書箇所は、イエス・キリストが一番身近に置いていたとされる 12 人のお弟子さんたち。その最初の 4 人を招く場面です。今でいう「スカウト」ですが、イエスさまの 12 人のお弟子さんたちは、じつは誰一人、立派・素晴らしい・非の打ちどころのない・皆から尊敬される…そのような人々ではなかったと伝えられています。中には読み書きもできない人もいた。

今日は 4 人の漁師をスカウトしましたが、その後は徴税人という当時人々から嫌われていたローマに雇われた小役人です。他にも反ローマの過激な思想家もいました。弟子たちはそれぞれが生き方も考え方も思想も方法論も違っていた。そんないろんなメンバーが、イエス・キリストという人物を通してはじめて出会い、互いを知り、語り合い、時に反目し、そして協力してゆきます。

また弟子たちは、イエス・キリストに従ってゆく中で、たくさんの病人や差別をされている人々、悲しみや苦しみの中にあっても誰からも目を向けられず捨てられているような人々にもたくさん出会ってゆきます。そのような何気ないような小さな出会いの中で弟子たちは、大きく成長し変えられてゆきます。「新約聖書にはイエスさまのことが書かれている」というのも正解ですが、もう一つは「イエス・キリストに従った弟子たちの成長のストーリー」という側面も持っています。

弟子たちは皆、私たちと同じような普通の人々だった。これといって何かできるわけでもなく、人生の中で混乱と迷いの中を生きていた一人一人。しかし、イエス・キリストとの出会いと、様々な違いを持った人々との出会いと向き合いの中で、彼らは大きく変えられ成長していったのです。

冒頭では明治維新の話をしました。大きく時代が変わるこのような第一歩や変化というものは、日本の歴史だけではなく私たち一人一人においても同じです。私たちの人生にもそれぞれに、明治維新のような出来事がある。今の、そしてこれからの皆さんの人生にも、必ず大きな一歩や変化の時がある。それは、小さな変化の積み重なりかもしれないし、数年後に振り返ってみてはじめて自覚するものなのかもしれません。

しかしはっきり言えることは、人にはその人生の中で必ず「大きな変化と成長の時」がある。そしてそれは、自分の中からではなく「違いを持った様々な人や価値観との出会い」から与えられるということ。今はコロナ禍です。出会いが制限されている、出会ったとしてもリモートであったり本当の意味で影響を与え合うほどには難しい「混乱と迷いの中」にあります。しかしその中であって、下を向きまた内に向くのではなく、上を見上げその魂と想いを外に向けてほしいのです。

私たちの生きるこの社会は、価値観やイデオロギーの対立の中にあります。また、TikTok でも Instagram でも Youtube でもニュースサイトでも、自分がフォローしたり好んで見る傾向から情報が選ばれて与えられています。「違い」と出会い、向き合い、「今の自分を自分を乗り越えてゆく」機会が得られにくい環境の中に取り込まれています。

しかし聖学院大学は、そのような社会の流れやコロナ禍にあってもできる限り、学生の皆さんに対して多くの人や価値観との出会いの場を提供してゆきます。この礼拝もそうですが、入学のその時から卒業まで、現在までの人が大切にしてきたものや人を超えた新しく豊かなものまで、多くの存在や価値観との出会いを提供し続けます。

この社会がインスタントな楽しみやコロナの困難さの中にあっても、聖学院の皆さんはなお上を見上げ、眼差しと魂とを外に向け成長の一步を踏み出してゆく、その出来事こそがこの時代の「希望」なのだと思ひます。

まことの希望は上にあり外にあります。そして、皆さんの成長の未来こそが希望であることを信じ、社会の安楽や対立、コロナの現状に飲み込まれてしまうことなく歩んでほしいと願っています。

2021年10月27日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「聖書が語る希望」